非暴力平和隊・日本(NPJ) ニューズレター

第24号　2008年8月27日発行

〒113-0001 東京都文京区白山１－31－９　小林ビル３階
Tel:080-5520-3077 E-mail:npj@peace.biglobe.ne.jp
Fax:03-5684-5870 Website:http://www5f.biglobe.ne.jp/~npj/

Nonviolent Peaceforce Japan Newsletter

- 巻頭言『雑用が世界を救う』ー会員拡大戦略―　理事・事務局長　安藤博　2
- 紛争地におけるNGOの役割と可能性　―９月２８日　セミナー案内―　5
- NPJ中期計画実現に向けての課題　理事　大橋祐治　6
  ・・・岡山でNPJ交流会を開催
- 北九州にて　会員　川辺希和子　8
- プロジェクトの現況　ーミンダナオ・スリランカー　10
- パレスチナと非暴力　会員　中原隆伸　12
- NP　国際ニュース　理事・NP国際理事　阿木幸男　17
- トピックス　ー庭野平和財団助成金交付ーNP、ニューヨークで活動報告　18
  ー“非武装のPKO”NPサイト掲載ースリランカ責任者交代ほか

マヤとアンジェラー誘拐から解放されたスリランカの少女たちーRumors of Peaceより

巻頭言

「雑用が世界を救う」

—会員拡大戦略－

理事・事務局長　安藤　博

海洋植物学者でもあった昭和の天皇は、（私が記憶する限りで一つだけ）いいことを言いました－「雑草という植物はない」と。この顰に倣えば、「雑用という用事はない」のです。特に「雑用」を誰もが嫌うこと、しかしその「雑用」なしには、どんなに高い理想も実現しようがないこと、このことからすると、「雑用」を「雑」と軽んじてはならないのです。非暴力で平和をつくろうというわたくしたちの活動にとっても、まさしくそうでしょう。暴力が非暴力を圧倒しかねない今日の世界では、「雑用が世界を救う」と肝に銘じておかねばなりません。

昨2007年夏、高野山で＜日韓・東アジア交流会議＞を開催して間もなく、米国ワシントンDCの大学に“出前講義”に赴任された君島・共同代表は、この8月26日に帰国されますが、この間一年、京都での超激務に比べれば多少時間の余裕がおありだったようです。太平洋を隔てて折に触れ指令を飛ばしてこられました。インターネット時代の有難さです。そのインターネットこそは、NGO活動の「雑用」を、「雑」を超えた組織運営上、のっぴきならないものにしているのです。同代表が、【NPJ中期計画（2008-2012年度）】（2008/06/16別掲の大橋原稿参照）に関連して、6月のNPJ理事会に向け提案（6/14）された＜会員拡大戦略＞も、多くの面でこのインターネット活用を踏まえています。

＜会員拡大戦略＞は、「中期計画」のうち特に、
「NPJ基盤を強化していくため、全NPJメンバーは、それぞれの場・地域、それぞれの方法で新会員を得ることに務める。」
を具体的に進めるための策として案出したものです。君島・共同代表の言われる「会員拡大に成功している大きなNGOの経験と知恵」を学ぶためのヒアリングを、7月中旬「国際協力NGOセンター（JANIC）」、「アムネスティ・インターナショナル」、「ブリッジ・エーシア・ジャパン（BAJ）」を訪問しておこなった後、一応の取りまとめをしました。後掲の7月26日付け＜戦略＞は、これに大畑、君島、鞍田、大橋などのみなさんからいただいた修正提案をいれて仕上げたものです。

いうまでもなく、「NPJ基盤」は、ひと・資金であり、この両者を一体として拡大策を立案しました。したがって、「会員拡大」も、「会員」「賛助会員」からよりひろく、常時、臨時のカンパ提供者まで含めて考えています。

多くはこれまでも行ってきたことの延長であり、また「会費の分割・自動引き落とし」のように一旦検討して「実現不能」とあきらめかけたような事もあります。が、会員拡大につながりそうな手立ては、どんなことにせよ試みてみようというのが、＜戦略＞の主旨です。

「会員拡大」を、活動の自己目的化することにつき当否の論議あったことに鑑み、ヒアリングに応じて下さった”先輩”のご助言のなかから、特に「『どういう活動をしようとしているか』をはっきりさせ、「その活動のための会員拡大である」ことが明確にできるよう」にすることを＜拡大戦略＞に盛り込みました。そして、そのために必要な「活動説明の資料」という当然の備えに、改めて取り込むことを特記しています。

お盆明け、「児童労働」問題に取り組む特定非営利活動法人、＜ACE＞(Action against Children Exploitation、1997年設立)の岩附由香代表にもお会いし、約1時間半のヒアリングをさせていただきました。「子どもが笑顔でいられる社会へ」というビジョン達成の使命感に基づく大胆な事業展開と、ファンド獲得などのために用意された周到な広報・プレゼンテーション資料などに圧倒されました。

2000万円程度の活動規模（2007年度決算　収入約1,740万円､支出約1,150万円。2008年度予算　収入約2,540万円　支出約2,720万円）を持つこと、総収入の3分1に及ぶ事業収入があること、活動主体が代表以下フルタイムで活動するメンバーであることなど、基本的な点でNPJとは異なる組織です。が、各種のファンド獲得に貪欲に取り組み成功していることなど、多くの点で学ぶべきものがあります。

ヒアリングをさせていただいた方々から得た「NGOの経験と知恵」は、文字通り「雑用が世界を救う」です。そういえば、この5月初めの＜9条世界会議＞（幕張メッセ）も、実行委員会事務局長として心血をそそいだピースボートの川崎哲さん以下、関わるメンバーみながこの言葉に徹してチラシ配り、グッズ、チケット売り、カンパ集めをしました。

ヒアリング結果に基づく＜会員拡大戦略＞にそって、力を入れ具体化しようとしているのとは、差し当たり次のようなことです（順不同）。

■　NPJウェブサイト充実のため､ニュースレターのウェブ化などを進める（これまで同様の紙に印刷する「レター」も併用）。

■　会費、寄付金の納入を容易にするための自動振込み制度を、専門業者に委託して実施することなどを改めて検討する（ACEは、専門業者への委託手数料で、制度導入の当初赤字になるのを､「当然の初期投資」としている）。

■　NPJの､「団体概要」､「組織沿革」（年表）などを、会員増加やファンド獲得のための基本資料として整備する。

■　各種の財団からのファンド獲得に本格的に取り組む(ACEに倣い､各財団ごとに､助成テーマ、助成金上限、申し込み締め切り日、人件費への助成の有無などの主要項目を列記した「助成金カレンダー」を､NPJが活用するものとして作成する）。

■　阿木NP国際理事による（本部）NP理事会の討議状況紹介や事務局長の私的メモなどをブログに掲載し、NPJ情報をより新鮮で親しみやすいものにする。

■「他の平和団体や、政治家、官僚などにNPの理念と活動を知らせる機会を作る」（NPJ中期計画）ため、先ず9月28日にNPJ主催の講演・討論会、「紛争地におけるNGOの役割と可能」を開催する。
■　NPJシリーズ出版企画を推進する(2008年4月刊行の『非武装のPKO』に続く）。

NP/NPJ活動の充実・活性化に必要なこうした基礎固めには、それを支える「雑用」のため、多くの面で専門スタッフを確保することが必要でしょう。ACEは、事業拡大に向けて有給事務局員の雇用に踏み切り（2005年度）、以後その人件費をまかなうことに苦しみつつ結果的には活動の拡大・高度化につなげています。ＮＰＪも、ひとつの賭けに出るべきかもしれません。もちろん資金を要します。年金財政に窮する日本の政界で「埋蔵金」がしきりに言われるのを思い起こします。

■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

＜会員拡大戦略＞

（2008/7/26改）

各種の会員拡大策を、以下の通りきめこまく実施することにより、カンパ金提供者を含めたNPJ会員・支援者グループを、計画期間（2008-2012年度）中に倍増する。

■　会員勧誘を働きかける相手・きっかけを最大限に拡大するため、各種・各地での集会開催や、他団体平和関連集会に参加してリーフレット配布などに務める。
■　コンタクトする相手には、「どういう活動をしようとしているか」をはっきりさせ、「その活動のための会員拡大である」ことが明確にできるよう、活動説明の資料をこれまで使用してきたリーフレットの新版作成作業と平行してつくる。
■　NPJウェブサイトをさらに充実するための具体策を講ずる。このため、特に若手のメンバーに、ウェブサイト充実策の提案を募る。
■　NPJの知名度を高めるため、「賛同人」を十分の活用できるよう、「賛同人」への活動報告など、緊密な接触に務める。
■　NPJの理念と活動に関連する本を明石書店からシリーズ化して刊行する。2008年4月刊行の『非武装のPKO』に続いて、NPJの賛同人、理事、会員による本を次々に刊行し、これを会員拡大にも利用する。
■「会費」が、「会員」となってもらうための”障壁”となる度合いを軽減するため、分割/自動引き落としなど納入方法につきを改めて工夫する。
■　臨時・随時のカンパ提供を、「会員拡大」の一環としてより的確、積極的に働きかける。
■　将来のコンタクトに備えて集会参加者に依頼する氏名/住所などの記述は、会場入り口での一覧表方式だけでなく、個別カードへの記入を求めることや資料請求用ハガキを挟み込むなど、「会員拡大」につなげるために周到な手立てを講ずる。

会員拡大戦略チーム
大畑豊、大橋祐治、安藤博

紛争地におけるNGOの役割と可能性

――アフガニスタンでの４年間のJVC現地活動を通じて――

２１世紀こそ平和の世紀に、との願いとは裏腹に各地で紛争が勃発、長期化するものも多くなっています。紛争の裏には多年にわたる歴史があり、それぞれの地域で一筋縄ではいかない問題を孕んでいることも事実です。一方、そうした紛争地において少しでも問題解決、生活支援に寄与しようという国際社会からの支援も根強く行なわれています。

1980年インドシナ難民の大量流出・支援を機に設立された日本国際ボランティアセンター（ＪＶＣ）は日本における救援団体の草分けの一つです。ＪＶＣは救援活動にとどまらず、積極的な政策提言もしており、「もの言うＮＧＯ」でもあります。

代表理事の谷山博史さんは、アフガニスタンでの４年間の活動経験もあり、その体験からいかに持続的に非暴力の活動を展開していくか、支援団体、個人はどうのように現地のプロジェクトを支援していくか、スリランカでの非暴力平和隊の活動を比較検討しながら紛争地での「和平」にむけてのＮＧＯ活動の可能性について、参加者とともに考えたいと思います。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

13：30　講演　「紛争地におけるNGOの役割と可能性」

――アフガニスタンでの４年間のJVC現地活動を通じて

谷山博史氏（ＪＶＣ代表理事）

15：50　「これからのNGO平和維持、平和構築活動を考える」

・スリランカでの『非暴力平和隊』活動報告

（NPJ理事：大島、大橋、大畑）

・パネルディスカッション

18：00　終了

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

日　時：９月２８日（日）13：15開場　　13：30　開始

会　場：国立オリンピック記念青少年総合センター：センター棟５１４号室

渋谷区代々木神園町３番１号　TEL 03-3469-2525

小田急線　参宮橋駅下車　徒歩約７分

参加費：一般　800円　　　学生　500円

主　催：非暴力平和隊・日本（NPJ）　http://www5f.biglobe.ne.jp/~npj/

TEL 080-5520-3077　　npj@peace.biglobe.ne.jp

NPJ 中期計画実現に向けての課題

理事　　大橋祐治

NP 設立後の最初の 3 年度総会が昨年 9 月下旬ナイロビで開催され、新たな理事会メンバーにより初めての中期計画が策定された。NP は、その目標達成に向けての歩みを始めた。

2002 年 11 月の創設以来、3 つのフィールド・プロジェクトを実施し、1 年間期間限定のグアテマラ・プロジェクトは今年 2 月に終了した。スリランカとミンダナオでは、プロジェクトが継続中である。スリランカは今年 1 月停戦合意が破棄され、ミンダナオでは停戦合意交渉が試行錯誤を重ねている。国レベルでの平和の実現には程遠いが、NP が活動中の地域では、現地の活動家を支援し、非暴力による草の根の紛争の抑止、緩和或いは市民の人権保護などを通して地域の信頼が構築された。

世界各地の 80 数団体で構成されている NP の運営には様々な課題を抱えているが、これらの課題を克服しつつ今後フィールド活動の強化・拡大に努めていかなければならない。それが非暴力による平和への実現の道である。

NP の一員である NPJ として、今年 3 月の理事会並びに総会において NP の中期計画に呼応した NPJ の中期計画策定の提案は実に時機を得たものであるといえよう。それ以来、安藤博事務局長が中心となり様々な意見の交換を経てようやくその姿が幾つかにまとめられて浮び上ってきた(2008/6/16 日付)。ベクトルの合った議論の展開により、これらの項目に優先順位を付けて具体的な肉付けをすることにより NPJ メンバーが参画・共有する中期計画が整えられるのではないか。

さて、2007 年度（1～12 月）の NP の年次報告書（アニュアル・レポート）が NP のウエブサイトに掲載された。

これによると NP の収入３０２万ドル、支出３６３万ドルで６０万ドルの収入不足であり、年度末の手許金は２１万ドルと大幅に減少している。NP の財務規律は支出の２ヶ月分、即ち約６０万ドルの手許金確保であり、このため昨年中にスタッフの一部レイオフを実施やむなきに至った。

収入の構成は、国連や一部欧米の政府の援助資金が約３０パーセントに達しているが、個人の寄付が５０パーセントを超えており、基金、財団の助成金を加え米国への依存度が６０パーセントを超えている。資金面での NP の課題の一つは、国連他政府機関からの援助資金の増加であることは言を待たないが、メンバー団体からの資金援助の要請も今後高まってくるであろう。

これに対して NPJ としてどう対応していくか？

これまで NPJ は田中恵美子基金からの送金によりメンバー団体の中では資金援助で大きな貢献をしてきた。また、２００７年には庭野平和財団から６０万円の助成金を受けスリランカのトリンコマリー平和委員会を支援、２００８年も継続案件として認可された。

＜会員拡大戦略＞（2008/7/26　別掲の

安藤稿参照）立案のための幾つかの有力NGO 訪問から学んだことは、基金、財団の助成金申請や企業や個人の寄付の訪問を根気強く、幅広く積み重ねることの重要性であった。ある程度の会員をベースにして、そのためにも会員の増強が望まれるのだが、NPJ 自体の活動を支えながら，NP への資金援助の努力を地道に、継続して展開できる体制を作ることが必要である。中期計画の目標の一つとして実現に向けて努力したい。

岡山で NPJ 交流会を開催（８月４日）

倉敷市の清水善朗会員の呼びかけで、8 月 4 日 6 時から、岡山駅西口の国際交流センター４階 交流サロンで NP の活動報告会を開きました。

岡山の会員は５名ですが、大畑共同代表が 2006 年 5 月、岡山弁護士会主催の憲法記念集会のシンポジウムに招かれたのがきっかけでした。

岡山弁護士会では、毎年 5 月に憲法記念県民集会を開催しており、この年は憲法改正をテーマに「どうする？憲法と平和主義」のタイトルで集会を企画、前年の京都で開催された日弁連の人権大会に出演した大畑共同代表の資料を読まれて、参加を要請されたとのことでした。

当日、会員の清水善朗氏と山本賢昌氏の他、イラク派遣違憲訴訟の原告団の方々や、9 条の会の会員、県会議員事務所の方々、また、阿木理事の著作を読まれた方も参加されていました。安藤事務局長、山口から前田理事、地元出身の大橋を含め 10 名以上の集会でした。終了予定時間を超えた熱心な意見交換は懇親会に場所を移し、散会したのは 10 時半近くでした。

前半の 1 時間、大橋が庭野平和財団助成金によるスリランカのトリンコマリー平和委員会支援活動をパワーポイントで紹介、安藤事務局長から 5 月初旬幕張メッセで開催された 9 条世界会議の総括的報告、前田理事より非暴力平和活動の地域（山口県）での展開の事例などの紹介がりました。そのあと、質疑応答、自己紹介を兼ねた意見交換で、非暴力平和隊の活動をより具体的に紹介することができたと思います。一方では,説明の際に、自分たちだけで分かっている言葉を無造作に使っていることを指摘され、丁寧に説明することの重要性を教えられました（一例として、NPJ はメンバー団体ですが、NPSL…NP スリランカ…はスリランカのメンバー団体ではなくスリランカのプロジェクトです。)。

—安藤事務局長の説明—

北九州にて

川辺希和子

「キリスト者・九条の会」北九州が２００７年５月に発足し、昨年末よりわたしも事務局員として参加し始めました。この会はプロテスタント教会の信徒たちから生まれましたが、メンバーが「カトリック平和の集い」に参加したことが縁で、現在ではカトリック･プロテスタントの枠を超えた活動になっています。枠を超えたことにより、互いから学ぶことと自分たちの問題点が見えてきました。「キリスト者・九条の会」北九州から、更に「９条守り隊」が生まれました。毎月はしんどいよ・・・という声もありましたが、毎月第４土曜日を定例会とし、憲法の学習会を始めています。今年度中に出前学習会を行って、特に子どもを育てている若いお母さんがたと一緒に学ぶことを目標としています。国民投票法が施行できる２０１０年まであと２年という危機感を持ちつつも、わかり易く、それぞれの思いをわかちあいながら、楽しくなくちゃ続かないよね・・と手作りのお菓子とフェア・トレードの紅茶を楽しみながら行っています。実際楽しいです。たった２時間ですが、会って話すことの大切さを実感しています。

８月１５日の敗戦記念日にバプテスト平和集会に参加しました。シンポジウムの発題者は山口護国神社自衛官合祀拒否訴訟原告の中谷康子さん他２名でした。資料のなかで印象強かった部分を紹介します。

１９８８年、逆転敗訴した最高裁において・・・・・「個人は国の行為に対して寛容であるべきである」という判決に対し、中谷康子さんは１５年に亘る闘いのなかで培った「中谷スマイル」を絶やすことなく、「権力におもねる最高裁」と語られた。（発題者　藤田英彦氏の文章より）

韓国の池明観氏はその著書『勝利と敗北との逆説』の中でヨハネ福音書１章５節の「光は闇の中に輝いている。そして闇はこれに勝たなかった」を引用し、「（前略）それが闇であることを自己暴露せしめることが勝利である・・・今度の判決で最高裁を包んでいる闇が照らし出されたのである」「今度の逆転裁判では殆どすべての新聞がその社説を通してまで、最高裁の不当判決を批判した。そして一人の良心の自由を擁護した。私は、どちらかというとこのような新聞の世論にかえって驚いた」と言っている。（「合祀いやです」にゅうす第３号より抜粋）

原告の中谷康子さんはわたしが学生の時に通った山口信愛教会の会員だったのですが、今もあのころと変わらない中谷スマイルでおられました。１５年間の闘いの間、嫌がらせ等も少なくはなかったようですが、中谷康子さんはこの裁判が「まちのヤスクニ問題だ」と言われたときうれしかった、「私憤」が「公憤」になったことがうれしかった、裁判の傍聴席を並んで取るときにみんなで炊き出しをしたりして楽しかった、と話されました。とてもよい平和集会でした。

今年５月のシスター弘田しずえ講演会「今、イエスの非暴力を生きるために」において、シスターの好きな言葉の紹介がありました。「たくさんの小さいひとたちが、たくさんのたくさんの小さいところでたくさんの小さいことをやっていると世界が変わる」・・・・この言葉を聞いたとき、非暴力平和隊の活動はまさにこれだと思いました。一部の人がドデカイことをするのではだめなのです。非暴力平和隊は、まだ「たくさん」ではありませんが、「たくさん」になることをめざして小さいわたしもNPJのみなさんとご一緒に小さい働きをしたいと思います。

NPJ のみなさんともっとお会いしたいと思います。みなさんの活動のいろいろな情報をお知らせください。早めに分かれば都合をつけて、九州・山口･広島･岡山あたりなら参加できると思います。

９条世界会議のNPJのワークショップの中で大島みどりさんの「・・・・・最悪のシナリオになる前にやるべきことを精一杯やることが大切だと思う」との答えに納得しました。日本においてこれからの２年間（国民投票が施行されるまで）が「精一杯やるべき時」なのではないかと、ようやく気づきました。

北九州で３月にNPJの説明会を開いていただいて賛助会員と会員が数名になり、最近では「非暴力について関心があるから講座などあるときは知らせて」という声が聞かれるようになりました。また、NPJ 説明会に参加されたカトリック教会の方が、自分の教会でスリランカのことを話し下さり、８月１０日の「平和の集い」において義援金送付先がスリランカと決定、３０万円を超える金額か集まったということです。こういったことにわたしも励まされ、今年度中に北九州で非暴力トレーニングと説明会を開いていただきたい（開きたい）とひそかに考えています。９条の会との抱き合わせでもいけるのではないかと思います。こちらの準備ができそうになったらご相談しますので、よろしくお願いします。

■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

注記：山口護国神社自衛官合祀拒否訴訟：

1972 年、公務中に交通事故で死亡した自衛官の妻（中谷康子さん）の山口護国神社合祀取りやめ訴訟。原告側 1979 年山口地裁で勝訴、1982 年広島高裁で勝訴、1988 年最高裁で逆転敗訴。

カンパに御礼

以下の方々より合計 298,600 円の夏季カンパを頂きました。ありがとうございます。

共同代表　君島東彦、大畑　豊

事務局長　安藤　博

【カンパをいただいた方々】

石谷美智子、信楽峻麿、阿木幸男、金子正芳、石井利一、浅田眞理子、本吉美佐子、エコロジー雑貨ももんが、酒井良治、馬渕廣子、水谷 慶子、日隅一雄、岡崎善郎、高柳博一、大畑豊、小出啓子、北村あや子、広殿隆、渡辺俶子、日置祥隆、清水研、俵恭子、佐々木クミ、中村健、江川嘉美、安藤博、小林善樹、矢吹道徳、大石裕子、大橋祐治、岡本珠代、前田惠子、小笠原正仁　　（順不同・敬称略）

プロジェクトの現況

ミンダナオ・プロジェクト

■　8月1日、JICAは「フィリピン・ミンダナオ島の和平促進と安定に向けて」というプレスリリースを出し、2006年10月からミンダナオ国際監視団（IMT）に派遣していたJICA職員（外務省出向）の後任として菊池智徳（前外務省南アジア第三課長）を派遣し、2007年4月ダバオ市に開設したJICAフィールド・オフィスと連携して和平交渉の促進と将来の復興開発計画策定に積極的に貢献していくと表明した。

そして、「フィリピン政府とモロ・イスラム解放戦線（MILF）との和平交渉は,『先祖伝来の土地問題』に関する合意がなされた結果、近日中に当該土地問題に係る合意文書の締結が行われる模様」と結んでいる。

■しかし、8月中旬、MILFと政府軍との戦闘が勃発、MILFがキリスト教徒の住む１５の町村に侵略した為といわれ、１６万人の住民が避難した。数日後にMILFは撤退し戦火は収まったが、和平交渉に影響を与えるのではないかとの観測である。

紛争勃発の要因は、８月４日に最高裁が和平合意案の正式調印に反対したためといわれる。和平交渉は、２００３年７月、イスラム諸国会議機構（OIC）の仲介により政府とMILF間で休戦協定が調印されて開始され今年７月、マレーシアの仲介によりMILFとアロヨ大統領の間で和平合意に達したばかりである。

■NPの活動の現況に触れる前に、ミンダナオでの主要当事者（ステークホルダー）を下記する。

・MILF（モロ・イスラム解放戦線）
・GRP（フィリピン政府）
・IMT（国際監視団…マレーシア、ボルネイ、リビア、日本）
・CCCH（停戦調整委員会…MILF,GRP）
・ARMM（ミンダナオ・ムスリム自治区…５州と１市から構成）
・武装勢力（特にASG：アブ・サヤフ・グループ）
・NPパートナー（バンタイ休戦、UNYPHIL他）
・JCM（合同停戦監視…ポストを設ける）
・JMAT（合同移動監視チーム）

■NPミンダナオ・チームの活動

６月の月報がNPウエブサイトに掲載されている。NPはコタバト市に本部を置き、ARMMの東部（コタバトの東北）と西部スールー諸島のスールー島に拠点を有し活動している。和平交渉の現状、頻発する政府/MILFの小競り合い、他の武装勢力（私兵やイスラム過激派）間紛争など流動的な情勢下で、住民のための同行やプレゼンスを提供する他に、様々な紛争の当事者との対話を構築している。MILFや政府軍の現地責任者とコミュニケーション・ルートが構築されていることは、一般市民の保護に有益に働いている。紛争両当事者よりフィールド・ワーカー（ICP：ミンダナオでは国際市民平和維持活動家と呼ばれている）の増員を要請されているが、最大の課題は資金である。

プロジェクト責任者アティフ・ハミードは、６月下旬米国を訪問,NPのニューヨー

クでの国連や基金、財団その他 NP の支援者に対するプレゼンテーションに参加した。
■尚、阿木報告によれば、８月初め、メル･ダンカン事務局長とテイム・ウオリス（プログラム・ディレクター）が NP ミンダナオ・プロジェクトを視察訪問とある。

スリランカ・プロジェクト

■スリランカ諸情勢（５月月報より）
５月１０日実施の東部州選挙（トリンコマリー、バティカロア、アンパラ地区）の結果を受けて、大統領の与党連合は国民の信任を得たとして、LTTE に対して徹底した攻撃を加えるものと予想される。それに対し LTTE は自爆攻撃で対抗するであろう。現在スリランカの最大の問題はメディアへの攻撃である。政府に批判的なメディア関係者の誘拐や殺害事件が起こっている。言論統制が激しいため、このような事件を含め人権問題、経済問題（インフレの高進）、戦闘による被害などの正確な情報が入手できない。今年５月改選の“国連人権委員会”では、唯一スリランカが改選されなかった。人権問題に関する国連の監視団をスリランカは受け入れを拒否している。

■スリランカのシンク・タンクとの懇親
８月２日からコロンボで「南アジア地域協力連合（SAARC）…インド、パキスタン、スリランカなど８カ国加盟」の首脳会議開催を前に、スリランカ政府、政府に批判的なグループは日本を含め関係諸国に働き掛けを行ったようだ。７月２４日、政府に批判的なスリランカの著名シンク・タンクである CPA（代替政策センター代表サラヴァナムトゥ博士）とスイスに本部のあるバーゴフ財団スリランカ（ローパーズ博士）を囲む会に、NPJ は他のスリランカに関係する学者、NGO、メディアなど少人数に加わって参加した。上述の５月月報の内容が詳細かつ正確であった点心強い思いであった。ローパーズ博士はスリランカに７年滞在していたが、ヴィザが更新されず現在ドイツで活動中。ヴィザについては NP の事例を参考に挙げ、辛抱強く政府当局と折衝するようにとアドバイスがあった。両博士とも NP の活動については十分承知していた。スリランカ政府に対しては、最近、ロシア、中国、イラン、パキスタンなどが経済、軍事援助を含めて影響力を強くしているようで、日本の立場が相対的に弱くなっているが尚、二人の博士は日本の影響力に期待している様子であった。

■NP スリランカ責任者交代
トピックスの項を参照。

■FTM の減員
NP 国際ニュース（阿木幸男）によると、FTM は現在１７名でコロンボを含む５拠点に一時配属されていた２５名から大幅に減少している。スリランカ人のワーカーは増加していると思うが、NP スリランカの活動を制約していると思われる。国際ニュースには又、英国、スエーデン、オーストラリアの政府機関から初めて補助金を得たとあるが、資金調達が NP の最大の課題であることを示している。

パレスチナと非暴力

在パレスチナ　中原　隆伸

■皆様ご無沙汰しています、中原と申します。多くの方と面識が無いと思いますが、2005 年からＮＰＪの会員ということで（ここ２年ほど会費未納なんですが）いろいろメーリングリスト等で投稿などさせていただいた者です。
■2007 年 1 月から現在まで、ＮＰのＭＯでもあるパレスチナのＮＧＯ「Middle East Nonviolence and Democracy（**MEND**、中東非暴力・民主主義センター)」のスタッフとして働いています。　この機会に、近況をいろいろ報告させていただきます。
■紙幅の関係上、今回は**ビリン、ウンム・サレモーナ**等、西岸の色々な所で行われているデモンストレーションに話を絞りたいと思います。　所属団体の方も新プロジェクトが始まったりサマーキャンプが二つあったり、最近色々活発になってきているので、次回報告させてもらえる機会があればさせて頂きたいと思っています。

■自分は今まで、**ビリン、ウンム・サレモーナ、アル･タス、ワラジャ、ハルバサ・ウスバア**（「Road 443」デモ）、**カッフィン、スシヤ**という村々でのデモに参加した事があります。　また自分は行っていないがデモが過去 2 年間に行われたのを知っている場所として、**クシン**、あと最近非常に注目されている**ニリン**があります。　このように色々な場所で行われている反面、継続して続いているのは（諸事情ありますが）**ビリン**と**ウンム・サレモーナ**位であるように見受けます。（添付の地図をご覧頂ければ幸いです）

■自分が最初にデモに参加したのは 2006 年 1 月 27 日。　大橋さんと一緒に参加したパレスチナの選挙監視を終えた二日後に、**ビリン**のデモに行きました。　この時はＮＰのベストをかぶって「オブザーバー」としての参加でしたが、ＮＰとしてはあくまで「オブザーバー」で前線で「参加」できないのは Nonpartisanship を標榜するＮＰならではでしょうし、はっきりいうとそれがパレスチナでＮＰが存在理由を確立させられていない理由の一つだと思います。

■2006 年の 6 月から 7 月にかけて、卒論の「フィールド・リサーチ」（事実上は「現場研修」並びに就職活動の面も大きかったのですが）のためにパレスチナを通算 3 度目に訪れた時に 6 度ほど参加しましたし、2007 年 1 月に**ＭＥＮＤ**で働くためにパレスチナに来てからは一年 4 ヶ月ほどの間、ほぼ毎金曜日デモに参加していました。

■その時期を通じて、イスラエル兵による鎮圧の方法もかなり変化しています。合計で 50 回近く参加しているだろう**ビリン**を例にとると、2006 年 1 月時点ではそのようなことは無かったのですが、2006 年 6 月の時点では音響爆弾、催涙ガスがかなり頻繁に使われていました。　その後 2007 年 4 月 13 日をターニングポイントとしてより一層暴力的になり、6 月ぐらいまでデモに行っても何にも出来ない時期もありました。　ただ夏になりインターナショナルの参加者が増えると共に徐々にデモ参加者をイスラエル兵が抑えきれなくなり、また 2007 年 9 月初頭にあったイスラエル最高裁の判決で村の分離フェンスの道筋を変更せよという判決もありました（が、この判決は、予想通りというべきか 2008 年 8 月現在でまだ履行されていません）。

■その後 2008 年 1 月、急激に鎮圧が荒っぽくなり、例えば催涙ガスの入った缶のようなものを山なりにではなく、水平に撃ってくる（コーラの 500ｍｌ缶がテニスのサーブみたいな速度で飛んでくる、と思ったら想像して頂けやすいかと）、

The Gaza Strip and West Bank

ゴム弾（中に金属片が入っています）で目の横を撃たれた日本人参加者の方が失明の危機に陥るなどかなり危ない時期がありました。　個人的にもその時期の「武勇伝」は少々ありますが、村の「人民委員会」のコーディネーター、アブダッラーが頭から出血して病院に運んでいる車にちょうど乗り合わせた時は本当に、感情を抑え切れなかったのを覚えています。

■現在（2008 年 8 月）はイスラエル兵による暴力の激しさ、という意味では 2008 年 1 月のレベルに比べればおとなしいですが、その分「新兵器」の別名「トイレの水」と呼ばれている、化学薬品を混入して排泄物の臭いが出るようにしたと思われる水を散布してデモを抑えようとしています。　もうじきラマダーン入り（2008 年は 9 月 1 日から）するので、その時期はデモ自体も短い時間になるのでしょうが、少なくとも 3 年以上続いている**ビリン**及び 1 年半以上続いている**ウンム・サレモーナ**は、終わり方としては二つしかない様に思えます。　村人たちに満足のゆく形で彼らの土地が帰ってくるか、実弾をイスラエル兵が躊躇せず使用する事になり、死者が幾人も出るか、のどちらかの形で。

■さて、もう一年以上前の事ですが、少しばかりインテリぶって、デモを続ける意味として、このような分類をしてメーリングリストに投稿してみた事がありました。

（1）「抵抗している」というのを、**支配者側に見せる→**
　ファイティングポーズを崩さない。「こいつらはまだ、あきらめていないんだな」という、力による支配継続のためのコスト高を予測させる。
（2）「抵抗している」というのを、**支配者側に見せる→**
　自分達のやっていることに疑問を持たせ、行動を改めさせるきっかけに。
（3）「抵抗している」というのを、**自分達の仲間（同胞）に見せる→**
　士気を高める。
（4）「抵抗している」というのを、**もともと興味関心のある第3者（インターナショナル）に見せる→**
　より一層のサポート、支持。　彼らの海外においての支援活動のための士気を高める
（5）「抵抗している」というのを、**全く知識・関心のない第3者に見せる→**
　何でなのか？という疑問からこの地域の紛争に対しての興味につなげ、支援基盤の拡充につなげる

■自画自賛とはまさにこのことなのですが、この分類を今になって、非常に的を得ていたなとよく思い返しています。
それというのも、これらの「見世物」的な要素は、僕がこちらで働き始めてしばらくして、現地で会ったジャーナリストの
『デモンストレーションはしょせん劇のようなもので、別にそれがあったからといって何も変わるものでは無い。　デモを続けて土地が帰ってくるとは思えないし、結局毎回軍に追い散らされているだけじゃないか』
　という問いかけに答えているものだと思うからです。

■誤解を恐れずに言うと、**ビリン**型デモは「劇場」なのです。　それも、極めて明快に「主役」と「脇役」と「悪役」、および「筋書き」が決まっている。　あたかも「水戸黄門」シリーズのように、始まり方と終わり方が決まっていて、その事を村の Popular Committee（「人民委員会」）が意識しているかいないかに関わらず、「占領反対のメッセージを伝える」という目的のために非常に理に適ったものになっていると思います。

■**ビリン**を例えにとると、「主役」たる村の「人民委員会」は、「脇役」のユダヤ系イスラエル人、及び世界各国からの

参加者に支えられて、「悪役」のイスラエル兵に対し「自分達の土地を返せ！」「正義が実現されない限り、絶対に平和なんて訪れないぞ！」と、話しかける。もしくは、オリーブの木に身体を縛り付けて木の伐採を妨げようとする、フェンスの向こう側（国際法上ではパレスチナ側の領土）に自分達の「Outpost（ミニ入植地）」を作る、様々なポスター・垂れ幕の掲示といった象徴的な行動をして自分達の意志を伝えようとします。

結局は「悪役」による暴力によりデモ参加者はちりじりにさせられてしまうのですが、それでも村の中心部への帰り道などで「占領が終わり、自分達の土地が帰ってくるまで、絶対にデモは終わらない！　俺たちは、何があっても絶対にあきらめないぞ！！」といって幕が降りる。「ビリン劇場」の「脇役」であり、それ以上に重要な意味において「観客」でもあるユダヤ系イスラエル人、及びインターナショナルは、自分達の住んでいる場所に戻って「占領反対」「ビリン村の土地を返せ」といった村人たちからのメッセージを、自分たちも傍観者というよりは参加者であるが上により一層の臨場感と感情を交えて他の友人、家族などに伝えていくことになる。
デモによる物理的・心理的圧力でイスラエル軍が撤退、もしくはイスラエル政府の政策が変更すると信じきる事は恐らくナイーブに過ぎるのでしょうが、イスラエルの占領政策に反対する国際的な世論を高めていく事は充分に可能だと思います。

■というより、「国際的」なものなど高める必要はなく、イスラエル政府の政策を変えたければイスラエル内の世論そのものか、アメリカのそれを変えるしかない、というのが僕の持論であり、何とかしてここで活動し続けるためにはビザを取り続けるしかなく、かといって学生ビザを更新し続けるのは資金的に時間拘束の面でも厳しすぎるので、イスラエル内のＮＧＯにそろそろくらがえしよっかな、などと思わないでも無かったりしています。 ま、これはここだけの話、ということで、また次回！

リンで兵士と対峙するパレスチナと外国人のデモ隊　写真提供　池田光識氏

パレスチナ、ビリンでのデモ

これらの写真は、中原氏の友人、
池田光識氏の提供によるものです。

—少年と兵士—

—壮年と兵士—

—青年と兵士—

—老人と兵士—

—銃口を向ける兵士—

NP　国際ニュース

NP 国際理事　**阿木幸男**

１．国際理事会の電話会議（２時間半）は隔月に実施。８月１９日（火）２２時ー２４：４０（日本時間）。財政問題、新国際事務局長の選考を検討、各フィールド・プロジェクト報告など。

２．国際事務局長：８月１５日に応募締め切り。書類審査、電話インタビュー中。その後、数人の候補者と会って面接予定。２００９年１月には、国際事務局長の誕生予定。それに伴い、メル・ダンカン事務局長は辞任する。（ミネアポリス居住の NP の共同設立者であるメル･ダンカンは、辞任後、戦略計画、資金調達などの分野での活躍が期待されている。）

３．NP 本部は、今年、英国、スエーデン、オーストラリアの政府機関から初めて、補助金を得た。
７月末には、UNICEF（国連児童基金）から補助金（約９５１万円）を得た。
NP 財政状態は、経費節減、有給スタッフの一時解雇、海外出張の延期、新規寄付団体、個人への働きかけ、などで、１月の「緊急事態」から抜けだしたものの、依然、「不安状態」にある。
国際理事会では「財政委員会」（エリック、ドナ、阿木、など）を中心に、資金獲得キャンペーンを展開中。

４．スリランカ・プロジェクト：現在、５ヵ所に１７人のフィールド・チーム・メンバー。『児童保護』（少年兵の保護）に関して、ノルウエイの”セーブ・ザ・チュルドレン”と活動検討会を持った。９月中旬に『児童保護対策検討会議』を持つ予定。

病気療養のため、ローランドが辞任し、フィリピンに帰国。これまで、スリランカ・プロジェクトの財政担当であったフィオナ・ムサナ（ウガンダ出身）が「カウントリー・デイレクター」（スリランカ NP 代表）に就任。

５．８月初め、ダンカン事務局長とテイム・ウオリス（プログラム・ディレクター）が NP ミンダナオ・プロジェクトを視察訪問。
８月８日、北コトバト地域で、武力衝突が勃発。１０万人以上の住民が避難した。
『和平交渉』が停滞し、一向に進展しない状況で、紛争当事者間に苛立ち、焦燥感が一層、募っているようである。

NP は EU に対し、１０人のフィールド・メンバー派遣のための補助金を緊急要請した。

６．「NP ドイツ」は NP のドキュメンタリ・フィルムに取り掛かる予定。
NP 宣伝ビデオを制作したジェリー・スミスは８月末にスリランカ、ミンダナオで宣伝用ビデオ取材を開始。
２００８年末までに、新たな NP 宣伝ビデオを制作予定。

トピックス

■昨年に続き庭野平和財団より助成金交付を受ける■

スリランカ NP は、東部トリンコマリー地域の平和委員会から人権や紛争解決などのワークショップを通じた活動強化の支援を要請されていました。

NPJ は本プロジェクトへの助成金を庭野平和財団に申請、昨年８月６０万円の助成金が交付され「スリランカの平和と人権問題のトレーニング・ワークショップ」プロジェクトが開始されました。（活動の概要については、ニューズレター２２号掲載の“トリンコマリー・チーム活動の紹介”を参照下さい。）

第１回目のワークショップはシンハラ、タミル、ムスリムの３０名が同じ宿舎に宿泊した１泊２日のプログラムで、様々な課題の学びとともに、言葉の障害を乗り越えてお互いの信頼構築に大いに貢献しました。その後は課題ごと、また、地方に分散してミニ・ワークショップを開催していますが、２００８年８月から第２フェースとして新たに６０万円の助成金の交付を受けることになりました。市民による草の根の話し合いによる平和への努力が実を結びつつあります。

■NP、国連加盟主要諸国、国連諸機関幹部に対し活動状況報告会を開催■

NP は、6 月 24 日、25 日の 2 日間にわたり、ニューヨークで国連加盟主要諸国並びに国連関係諸機関の代表に対して、NP の活動現況と非武装市民平和活動の重要性について報告と対話のイベントを開催しました。このイベントは、国連カナダ代表部主催によるもので、UNICEF、チョードリー大使（元バングラデシュ国連大使、元国連事務次長）、ハーグ平和アピール・コーラ・ワイス女史などの協力も頂いたものです。またこの機会を利用して、NP は米国に本部を持つ財団、基金関係者、NP 活動支援者、個人大口寄付者などとの懇親の機会を設け、活動報告を行うとともに資金援助の要請を行いました。

フィールド活動については元グアテマラ・プロジェクト責任者ベッツィ・クライツ、フィリピン・プロジェクト責任者 アティフ・ハミードが報告しました。

ーアティフとベッツィ・クライツー

尚、日本を代表して出席された星野国連公使には、デビッド・グラント（NP 戦略関係ディレクター）から「非武装の PKO」が贈呈されました。

■“非武装の PKO”が NP のウエブサイトに英語で掲載されました■

NP 国際事務局のウエブサイトは下記です。
http://www.nonviolentpeaceforce.org/welcome
左上に項目が掲示されています。
PRESS　ROOM をクリック。
中ほどの **Press Releases の最初に**

- NP-Japan publishes book: *Unarmed Peacekeeping Operations*

が表示されています。ここをクリックすると「“UN-ARAMED Peace Keeping Operations”」（非武装の PKO）の目次が表示されます。NPJ の活動の一端を NP メンバー団体に紹介するよい P・R となります。

■ スリランカ・プロジェクト責任者交代 ■

7 月よりスリランカ・プロジェクト・ディレクターとしてフィオナ・ムサナ（Fiona Musana）が着任しました。

前任者ロランド（Roland Roescheisen ドイツ）は昨年 11 月に着任したばかりですが、健康を害して復帰の見込みが立たなくなっていました。日本大使館とも積極的にコンタクトするなど大変意欲的に活躍されていただけに非常に残念です。

フィオナは昨年 10 月、スリランカ NP の資金調達責任者として着任しました。ウガンダ出身ですがウガンダ TV でドキュメンタリーの制作に携わった後、ドイツ政府の開発協力を担当する「ドイツ技術協力公社」に移り、ウガンダで 15 名の職員の責任者として活躍していました。

フィオナとは、彼女の着任直後からトリンコマリーの庭野平和財団助成金によるプロジェクトの関連で NPJ とコンタクトを持っていますが、大変温厚で誠実な人柄です。スリランカの大変困難な現状の中、フィオナの今後の活躍を大いに期待したいと思います。

■スリランカ　フェステバル開催■

9 月 13 日（土）&14 日（日）の二日間、代々木公園**【イベント広場・けやき並木】**でスリランカ・フェステバルが開催されます。（10：00～18：00　入場無料、雨天決行）
今年で 4 回目になり軌道に乗ってきたようです（最初の２回は、NPJ も含め NGO が協力しました）。
スリランカ大使館主催、外務省、東京都,JICA などの後援です。スリランカの一流舞踏団によるスリランカの伝統的な踊り、音楽の催し、セイロン紅茶などスリランカ製品の販売、そして何よりもスリランカ・カレーなどスリランカ料理が楽しみです。

Nonviolent Peaceforce

非暴力平和隊の理念と活動に賛同・支援してくださる個人および団体を会員として募集しています。入会のお申し込みは、**郵便振替、銀行振込、非暴力平和隊･日本ウェブサイトの「入会申し込みフォーム」**をご利用下さいますようお願いいたします。

◎正会員（議決権あり）
- 一般個人：１万円
- 学生個人：３千円

＊ 団体は正会員にはなれません。

◎賛助会員（議決権なし）
- 一般個人：５千円（１口）
- 学生個人：２千円（１口）
- 団体　：１万円（１口）

郵便振替：00110－0－462182　加入者名：**NPJ**
＊通信欄に会員の種類を(賛助会員の場合は口数も)ご明記ください。 例：賛助個人１口
銀行振込：**三井住友銀行 白山支店　普通 6622651**　口座名義：**NPJ 代表 大畑豊**
＊銀行振込をご利用の場合は、お手数ですが電話･ファックス･メールのいずれかを通じて入会希望の旨、NPJ 事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。
ウェブサイトからのお申し込み：http://www5f.biglobe.ne.jp/~npj/nyukai.html

右の本は、4 月 25 日に発売されました NPJ の最初の出版です。NP の活動の理念と実践、将来の目標など NP を理解する入門書・解説です。明石書店発行、定価 1,800 円です。お近くの書店で購入あるいは申込できます。また、近くの図書館に購入依頼して頂ければ幸いです。

争いの当事者と話し合う FTM

非暴力平和隊(NP,Nonviolent Peaceforce)とは……
地域紛争の非暴力的解決を実践するために活動している国際 NGO で、非暴力平和隊・日本（ＮＰＪ）はその日本グループです。これまで世界中の平和活動家たちが小規模な非暴力的介入について経験を積み、功を収めて来ました。ＮＰはこれを大規模に発展させるために 2002 年に創設されました。非暴力・非武装による紛争解決が「夢想主義」でも「理想主義」でもなく、いちばん「現実的」であることを実践で示していきます。